

市民ワークショップ結果報告

文化・教育部会



第2回ワークショップまとめ

文化・教育部会 テーマ：義務教育について ①

(仮称) 第5次甲府市総合計画第2回市民ワークショップ
平成17年4月23日(土) 午前10:00~ / 遊亀公民館

まとめ

学校教育内容について

- ・放課後の活動枠を広げる。(運動場の開放など)
- ・甲府の歴史をしっかりと教える。
- ・市の予算の不足
- ・児童館の充実
- ・人間としての素養を教える。(性教育・タバコなど)
- ・校庭で自由に遊べるように
- ・児童館の充実
- ・空き教室を集まる場所へ
- ・放課後、スポーツ教室やコーラス教室を空いているグラウンドや教室で行う。
- ・有効に使えていない子どもの余裕時間の活用

教育方針の方向性

学校

- ・特色のある学校をつくる。
- ・学校ごとに特色を持たせる。
- ・高度な学力を育てる学校を作る。(甲府市が誇れる特別な学校として)
- ・好きな教科を特別に勉強できる学校。
- ・余っている市の校地・校舎の活用
- ・通学区を広げる。
- ・留守家庭の無料化(学校との密接化)

教員

- ・公立と私立の差をなくす教育(教員の質)
- ・年末の引き継ぎをスムーズに(教師同士の伝達)
- ・受けた研修の相互伝達
- ・退職したり、特別な能力を持っている方のリストをつくり、有効活用を図る。
- ・地域との交流をもっと深める。
- ・仕事ぶりを見させる。
- ・働くことの大切さをしっかりと教える。
- ・学校管理人をなくす。(土・日も学校管理は先生が責任を持って)
- ・いつも(土・日も)先生が学校にいる環境

- ・先生管理によるクラブ活動の実施(放課後)

教育に対する地域の係わり

- ・地域社会との係わり(社会のための子どもから子どものための社会という視点)
- ・地域の中心に学校を置くことで地域に子どもを(週6日制)
- ・週6日制の実施
- ・子どもクラブの活用
- ・義務教育に地域の職場見学(社会への関心を高める)
- ・義務教育について家庭の理解度は
- ・道路拡幅の見直しなど歩道を広くして子どもの遊び場を。(中央五丁目など)
- ・休日に子どもの遊び場がない。
- ・地域・古里への愛着をもつまちづくり(電線の地中化など)

中心地域の活気

- ・学力向上の取り組みを地域ごとに進める
→地域に人を集める →地域活性化
- ・地域通貨の導入
- ・スポンサー

学力向上への取り組み

- ・子どもの学力不足
- ・子どもに余計な時間を与えない
- ・早期教育の重要性を目標にする。(基礎教育の充実)
- ・学校外に頼らなくていいように基礎をしっかりと
- ・基礎がしっかりできる教育を(読み書きソロバン)
- ・教育の方針を明確にすること(均等教育、差別化教育、学力向上など)
- ・学力を上げる差別化も一方法(分野別に能力向上など)
- ・均等教育から個性ある教育への転換
- ・私立公立の学力格差が心配
- ・先進事例(学院大小学校)を参考に

- ・市民の中にもいる教員有資格者の活用
- ・学カトレーニングセンター(活用できる人材を育てる場の提供)
- ・週5日制+1日にして、1日を先生と教室で学力強化

学校跡地利用

- ・学校跡地をマンションにするのは反対
- ・統合の迅速化(中央地区)
- ・跡地は複合施設に(1、2階を教育スペースに)

第3回ワークショップまとめ

文化・教育部会 テーマ：義務教育について ②

(仮称) 第5次甲府市総合計画第3回市民ワークショップ
平成17年5月29日(日) 午前10:00~ / 県民情報プラザ

まとめ

発想を変えよう、人を変えよう、学校も変えよう!!

ハード
(学校の配置)

ソフト
(教育環境)

中心部に集まる子どもで地域の活性化

- ・街に行きたくなる学校をつくる(活性化)
- ・学校があれば街が儲かる
- ・旧)西武デパートを学校にしたらどうか

←---→

果たして活性化につながるだろうか?

児童生徒数の多い賑やかな学校づくり

- ・学校は生徒数が多い方が効果が多くなる
- ・学校は人数が多い方がいろいろな活動も楽しくなり、効果も大きい。

中心部に学校を作る

- ・学校といわれるものが(小中に限らず)中心街に来た方がよい
- ・学校も中心街にある方が便利
- ・中心街に学校を作る(中学校)
- ・中心部に小中連絡校設置
- ・民間資金の活用

小中一貫校の設置

- ・小中一貫した教育
- ・小中一貫校をつくっていく
- ・小中一貫教育を推進する
- ・小中学校を同一な場所に設置

自由な学校を選択

- ・親が選ぶことのできる学校を作る
- ・通学区域枠の撤廃
- ・学区をなくす
- ・学区を無くし学校を選べるようにする
- ・中途でも学校を選べるようにする

学校統廃合の促進

- ・学校の統廃合によって児童生徒数を増やす。
- ・統廃合は、市民の声を取り入れる。

民間活力の導入

設備の充実化

- ・民間企業とタイアップしていく(生徒一人一台パソコンを提供してもらうなど)

密度ある授業の実施

- ・教養関係の授業を5分短くして主要教科を浮いた時間に行う
- ・教科の時間をやりくりして、8時間授業のある日や、2時間授業であと体育というような日があってもよい

「温故知新」から見直す教育

- ・目上の人や年長者を敬うといった部分を変えてはいけない
- ・戦後の民主主義教育の弊害が出ている
- ・今の日本人は権利と義務を取り違えている。小さいときから教える必要がある。
- ・親がしっかりしないといけない

教員の質の向上(様々な手法の導入)

- ・特定の教科については民間人の登用を図る
- ・教員の資質を向上させる手段を講じる必要がある
- ・教師の子どもに対する資質の向上を図る
- ・教員のレベルアップが基本である
- ・小学校も高学年は担任と教科を教える中学方式を導入する
- ・担任・教科の専任制
- ・専門性の高い退職の先生を活用する
- ・先生の報償を考える(褒める制度)

工夫を凝らした学校の運営

- ・マネジメントの強化
- ・警察官を各学校に教職員として配置する
- ・学校長の権限を強める
- ・小中校長の権限を高める
- ・学校の特色をPRして広報等に掲載する

給食

- ・給食をたくさん食べさせる

学校教育のあり方

- ・特色ある学校づくり(他の都市にはない方法、システム)
- ・個性と競争で活力ある学校づくり
- ・個性の活用
- ・魅力ある学校づくり

- ・時代のニーズに即した学校づくり
- ・学校を変化させる手段を具体的に講じる必要がある
- ・子ども達の考え方が変化している。学校も変化する時期

- ・変えなければいけないこと、変えてはいけないことを明確にした教育

第4回ワークショップまとめ

文化・教育部会

テーマ：生涯学習も含めた教育環境全般について

(仮称) 第5次甲府市総合計画第4回市民ワークショップ
平成17年7月24日(日) 午前10:00~ / 県民情報プラザ

まとめ

自分のために 甲府市のために 磨きつづけよう！

生涯学習とは何か

自分のために

- ・生涯学習とは、今より良くなりたから学ぶもの
- ・豊かな充実した人生を送るために
- ・人は学習する存在である。だから学ぶ機会が必要、しかし個人だけでは続かない
- ・生涯学習は、自分がどう生きるか、生きていくのかということを知る
- ↓
- ・向上心を育む為に必要

生涯学習の地域社会への浸透

- ↓
- ・社会全体に学ぶ風気が必要
- ↓
- ・人間が持って生まれた能力を最大限発揮できる社会

市民からまず始める生涯学習

社会のために

- ・自己満足な活動から社会に貢献できる活動へ
- ・社会のために貢献できるものにすべき(自分だけが楽しいだけでなく)
- ・学校教育で評価できない才能を生涯学習で拾う
- ・個と個、人と人の違いを認識することにより人に対する思いやりが生まれる

生涯学習の質の向上

- ↓
- ・ほめることを積極的に行うべき
- ・高齢者だけでなく若人も参加する生涯学習が必要
- ・大人が学んでいる姿を見て子どもの学習観が変わる
- ・才能、個性を評価できる文化をつくる必要がある。

多くの人が生涯学習に参加して社会の多くのものを出す

・生涯学習の成果も社会のためになるように
・競争の原理を積極的に導入し、いいものを評価し、生涯学習の質の向上を図る必要がある。

地域活動の充実

市民活動の支援

- ・市民が活動しやすい状況づくり
- ・市は「ハコ」をつくるだけでなく有効に利用できる企画力が必要
- ・市民会館の自主企画を充実して欲しい
- ・桜座をいろいろなアイデアで自由に使えるように
- ・音楽や演劇のワークショップなど
- ・フィルムコミッションのようなシステム

イベント(お祭り)

- ・個々の地域のネットワーク化が必要(地域ごとのまとめ)
- ・地域の小さなお祭りも日程をあわせて大きなお祭りに
- ・甲府全部の御神輿を出して合同で行う。
- ・あえて狭いところで行う。(賑わいを出す、界隈性、賑わい)

何をすべきか

地域の財産を掘り起こす

- ・生涯学習で地域の財産を掘り起こす
- ・地域にあるモノ、甲府にしかないモノを磨いて世に出す

文化・歴史・道徳を伝える

- ・伝えていく人がいない地域の文化・歴史を伝える
- ・甲府にそういうものがあるのか(大好きまつりなど)
- ・歴史教育を伝えるべき
- ・道徳教育を伝える

生涯学習のまちづくり

まちづくりは人づくりにつながる

まちづくりとしての仕掛け

- ・生涯学習をまちづくりの仕掛けとして使う。
- ・例えば、高齢者をターゲットにしぼった仕掛け
- ・公民館+αのしかけ(公園やお店、イベントなど連携)
- ・既存の建物を有効利用
- ・コンパクトシティの考え方を取り入れる

活動組織づくり

- ・生涯学習をプロデュースする組織(市民・行政・自治会)

運営組織

- ・自治体組織が衰退。自治会活動を活性化させる必要がある。
- ・地域が高齢化していて自治会機能が低下している

人材

- ・生涯学習をプロデュースする市民の人材
- ・生涯学習の人材バンク

生涯学習の場

- ・設備の充実(公民館など)
- ・公民館活動が重要